

腰痛からみた職場環境

～「職場における腰痛予防対策指針（H6 労働省）」に基づいて～

施設名 サンセリテのがた
発表者 川崎 桂

腰痛発生に関与する種々の因子の中で、自動車運転・座りがちの職業・労働環境・不満足な職業職種は、職種性危険因子といわれ、これらの因子が関与して発生すると考えられる腰痛が職業性腰痛である。中でも、労働環境因子として、重量物の反復挙上・前屈位での作業・急激な最大力学的要請・長時間にわたる同一姿勢・振動が挙げられる。

以上にかんがみると、医療福祉の現場において、身体介護業務は職種性腰痛危険因子に満ちており、かなりの割合で腰痛保持者が存在するであろうことが予測される。実際、当施設内でも介護職員からの腰痛の訴えは頻繁に耳にする。

そこで、利用者様により良い介護を提供するためにも、働きやすい職場環境を作るためにも、当施設での職業性腰痛の実態を把握し、対策を検討する必要があると考え、今回、介護職員を対象に聞き取り調査を行い、合わせて、他施設での腰痛予防の取り組みを参考にさせていただくため、アンケート調査を行った。また、腰痛予防の観点より当施設の職場環境を見なおすため、この検証を、平成6年に労働省から出された「職場における腰痛予防対策指針」に基づいて行なった。

この結果、得られた知見を報告する。